

歯学協ニュース No.4 (発行日：2015年7月21日)

歯学協ニュースは、No.4からA4縦サイズに変更しました。当初は郵送を考えていましたが、限られた予算のなかで継続するためには、ホームページを利用することを中心に考えた結果です。これまでの約1.5倍の原稿料が収載できることもメリットです。どしどしとご投稿賜ればと存じます。今回から日本歯科医学会に登録されていない学会紹介を始めます。数学会を掲載します。今回掲載されていない学会は、No.5、No.6を予定していますので、準備を始めておいて下さい。

日本歯学系学会協議会・日本学術会議共催 公開シンポジウム「これからの歯学・歯科医療における人材育成」開催

平成27年2月7日、昭和大学旗の台キャンパスにて日本学術会議との共催開催された。歯学系の学会組織を緯糸で結ぶ歯学協が、政府、行政とも密接な連携をもつ日本学術会議と共催することは、歯学系の学会にとってきわめて意義深いものといえる。今回は、シンポジストとして文科省の医学教育課長、厚労省歯科保健課長の参加・出席を得て行政側の考え方の一部を垣間みることであったように思う。

3部に分けて進行され、第1部は佐々木啓一歯学協副理事長を座長とし、窪木拓男岡山大学教授と中島信也日本歯科医師会常務理事によって「これからの歯科医療を支える歯科医師の育成」をテーマとして行なわれた。

第2部は、安井利一歯学協理事を座長とし、寺門成真医学教育課長と鳥山佳則歯科保健課長から「歯学教育と臨床研修の連携」をテーマとして、卒前教育と卒直後ならびに社会的ニーズに合致した医療人の育成についての考え方が紹介された。

第3部は、木村博人歯学協理事の座長のもと、「歯学における大学院教育・専門医教育のあり方」をテーマとして、丹沢秀樹学術会議第二部会員（歯学協特別会員）および永田俊彦歯周病学会理事長によって、現代の家庭教育から専門職育成教育に至るまでのさまざまな問題点、大学院入学者数の動向（減少傾向）からみた問題点についての講演が行われた。

最後に、以上3セッションの内容についての総合的な討論が、各講師と一般参加者を交え、予定時間を超えて活発に行なわれた。テーマがきわめて広い範囲に及びものであり、シンポジウムの結論は望むべくものではなく、さまざまな問題点の抽出ができたのではなからうか。今後の議論の継続が求められる。

講演内容の詳細は、プロシーディングを参照して下さい。

(文責：千田 彰歯学協広報担当理事)

【学会紹介】日本口蓋裂学会

本学会は口唇裂、口蓋裂の治療、予防に関する学術の向上につとめ、社会福祉に寄与するとともに、会員相互の知識と交換と親睦を図ることを目的として1976年に設立されました。その前身である口蓋裂研究会は1970年、さらに口蓋裂言語治療談話会が1961年に発足しており、これらを含めると50年以上の歴史を有しています。会員の専門分野は矯正歯科、口腔外科、形成外科、音声言語、小児歯科、補綴歯科、その他の歯科、耳鼻咽喉科、看護、心理、その他きわめて多職種に亘っていることが大きな特徴と言えます。

会員は年々増加しており、昨年度末には総計3154名となっています。学会誌の発行や総会・学術集会の開催などの基礎的、臨床的研究活動、裂型分類や言語評価標準化をはじめとする治療の標準化と客観的評価へ向けての取り組み、講習会やセミナーの開催、口唇裂・口蓋裂の発生状況と治療実態に関する全国調査、「口唇裂・口蓋裂の治療プラン—全国111診療チームにおける現況—」の発刊、診療ガイドラインの作成準備、国際交流の推進など多彩な社会への貢献活動を行っています。今後は次世代の指導者育成にも力を入れたいと考えています。

日本口蓋裂学会は、歯科系以外の多職種の会員も加わって活動している点で、日本歯学系学会協議会加盟団体の中ではやや異質な学会ですが、皆様のお力添えを頂きますようお願い申し上げます。

理事長：鈴木茂彦

【学会紹介】日本顎口腔機能学会

本学会においては、下顎異常機能、咀嚼、下顎運動などの解明を継続性のある重要な継続的課題の一つとし、さらに最近では時代に特化した加齢に伴う機能現象の解明をも一つの重要課題とした研究活動が多く報告されています。基礎と臨床の両観点からの研究活動が活発に進められて来ていることに大きな特色があります。会員構成は、臨床研究を行う歯科医師のみでなく工学や生理学を専門とする研究者からなっており、種々のバックグラウンドを持つ研究者がそれぞれの立場から創造的な質問を行うことで研究の科学的な深さを求める姿勢が貫かれています。

超高齢社会を迎えた日本においては、歯科医学は率先して口腔機能に関連した原理現象を解明して臨床にフィードバックをさせるべき責務を負っていると考えられます。団塊の世代が日本の社会で活躍しかつ顎機能異常や歯の欠損に伴う種々の機能低下に悩んだ頃、筋電図研究の臨床研究黎明に世界を牽引してきたと自負している本学会ですが、その豊富な研究背景や研究的ノウハウをベースとして、高齢者の顎口腔機能についても活発に発信して行きます。

会長：皆木省吾



【学会紹介】日本歯科技工学会

1979年、全国の歯科技工士学校の教員が中心となり、日本の歯科技工界の発展を目指し、歯科医師、歯科技工士、企業関係者などが集い新しい材料や先端技術などを紹介、議論するために設立されました。

本学会の目的は、歯科医学の一分野である、補綴装置や矯正装置を作成する歯科技工の学問的確立、臨床術式の研究発表を行い、歯科技工学の進歩発展を図り、歯科技工装置を通じて歯科医療の向上に寄与し国民の福祉、健康に貢献する事です。

歯科技工士の育成は、国により制度化され、その資格は国家資格であることは、世界で唯一日本だけです。恵まれた教育環境で学び、卒業しても生涯歯科医療に関心を持ち、国家資格を有する専門職種として歯科技工の高い技術を目指して欲しいと願っております。本学会は、若手の会員と多くの優秀な先輩方がともに交流を深め研鑽していく場を提供しております。

また、国際学術大会も本学会が発起し、設立以来5回開催しており、日本だけでなく諸外国の同じ志をもつ歯科技工士および歯科関係者の方々との国際交流も積極的に努めております。多くの日本の歯科技工士が海外で活躍しており、非常に高い評価を得ております。

歯科医療の中で重要で大きな責任を課せられている歯科技工、本学会としては歯学系の権威ある学会との積極的な交流を図り、世界に向けて、日本の質の高い歯科技工士教育制度による高い水準の歯科技工技術・学問を発信する責務があると考えます。

理事長 山鹿 洋一

【学会紹介】日本口腔腫瘍学会

1983年（昭和58年）に大分医科大学の清水正嗣先生（現：大分大学名誉教授）が発起人となられ、「口腔腫瘍懇話会」が発足し、その後32年を経過しておりますが、その間、懇話会から研究会、さらには学会へ、機関学術誌の発刊、日本がん治療認定機構の「がん治療認定医（歯科口腔外科）」の認可、法人化（一般社団法人）、口腔癌取扱い規約と口腔癌診療ガイドラインの発刊、日本歯科医学会参入、口腔がん専門医制度の発足など、学会としての基盤が構築され大きな流れの中で進化、発展をしております。

癌治療に関します環境は大きく変化していますが、口腔癌に関しても手術の進歩のみならず、定位照射や粒子線治療などの放射線治療、PETなどの診断技術、化学放射線療法、分子標的薬など目覚ましい速さで国内外において発展を遂げております。それらの進歩に乗り遅れしないようにするため、学会のグローバル化を進めております。口腔外科関係の国際学会での発表、論文文化はもちろんですが、「Oncology」関係の専門学会（ASCO, ESMOなど）においても発表、論文文化を期待しております。それに伴い昨年「共同研究委員会」を設置しておりますが、将来的にそのような学会発表の後方支援を本学会ができればと思っております。さらに、本学会の英文名称をこれまでの「Japan Society for Oral Tumors」から「Japanese Society of Oral Oncology」に変更させて頂きました。今まで以上に海外に目を向けて邁進いたします。

理事長 藤内 祝

【学会紹介】日本口腔科学会

1913年（大正2年）に東京大学医学部歯科学講座に歯科医学懇話会が設置されたことに始まり、1918年（大正7年）には日本歯科口腔科学会に改称されました。太平洋戦争により活動が一時中断されましたが、終戦間もない1946年（昭和21年）には活動を再開し、名称を現在の日本口腔科学会に改めています。2004年（平成16年）には特定非営利活動法人となり現在に至っています。本学会の目的は、口腔科学に関する基礎的・臨床的研究を幅広く進め、医学・歯学の進歩と発展に貢献し、学術文化および医療福祉に寄与し、もって国民の健康増進を図ることです。毎年、全国的な学術集会と6地方部会主催の学術集会を開催しており、日本口腔科学会雑誌を年4号、Oral Science International誌を年2号発刊し、さらに、平成26年から英文単行本Oral Science in Japanを年に1回発行しています。

日本医学会の分科会であり、会員は口腔関連の各専門領域の研究者・教育者・臨床医から成り、そのほとんどは歯科医師ですが、医師、PhDなどの参加も多く、会員数は3,800名を越えています。職種、診療・研究領域にとらわれない、非常に学際的な特徴を持つユニークな学会です。医学の進歩に対応した医療を口腔科学においても発展させるには、狭い分野に限定されることなく、異分野にわたる融合研究が重要です。今後も、本学会として、歯学の各分野はもちろん、各医学分野、工学や理学など多方面の研究者と協力して、広い視野に立った口腔科学の発展を目指します。

理事長 丹沢 秀樹

歯学協第13回講演会

平成27年6月15日（月曜日）、昭和大学旗の台キャンパス2号館4階第6講義室において、「日本の歯学・歯科医療の今後の方向性」をテーマに開催されました。

古谷野潔学術会議会員（歯学協特別会員）、住友雅人歯科医学会会長、江藤一洋アジアデンタルフォーラム理事長の3名にご講演頂きました。

これからの歯科医学の進むべき方向について、それぞれの講師から格調の高いお話が伺えました。詳細は、9月ないし10月にプロシーディングに収載予定です。

歯学協 平成27年度理事会ならびに総会

平成27年6月15日（月曜日）、昭和大学旗の台キャンパス2号館4階第6講義室において、講演会に先立ち行われました。定款に則り、平成26年度事業報告、同会計報告等が行われ、また、平成27年度事業計画ならびに予算案が提案され、いずれも賛成多数に承認されました。

歯学協が抱える多くの問題について、シンポジウムや講演会を通じて会員のみならずと情報共有すべく、いくつかの事業が提案されています。事業を展開すると予算的に厳しくなることが予想されます。会員のみならずから積極的なご提案を頂ければと考えております。

事務局：口腔保健協会内

〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSビル

電話：03(3947)8891 E-mail: gakkai18@kokuhoken.or.jp

URL:<http://www.ucjds.jp/>